

8月22日（木）に行われた渋谷内閣審議官による記者会見の冒頭発言

19時半からブルネイ日本大使公邸で、日本主催の夕食会を開催。日本以外の11か国の関係者がすべて出席。甘利大臣以外に、大臣として閣僚会合に出席した8か国のうち、ブルネイ以外の閣僚はすべて出席。その他の国は大臣の代理として閣僚会合に出席している方、ブルネイは首席交渉官が出席。ホスト国以外の国がこのようなことを実現し、すべての人に来てもらうのはなかなかないこと。

午前に全体会合があり、明日も予定されている。本日も、会議の場では、夕食会で続きをしようという話もあったほど、日本が全体の雰囲気づくりに貢献している。

本日から19回目の交渉ラウンドも開始された。本日、朝9時から知的財産、政府調達の分科会が開始された。9時から18時まで行われたということで、18時過ぎに両分野の交渉官から疲れた表情で報告してもらった。議論が遅れている代表の一つである知的財産については、30日までのロングランである。多くのブラケットを一つでも外すための話し合いが始まったが、なかなか簡単でないのが初日の印象である。政府調達については、日本は世界トップクラス、最も解放されている国である。WTOのGPA(政府調達協定)に入っている国はTPP交渉参加の12か国中、日本、米国、カナダ及びシンガポールの4か国のみ。残りの8か国に市場開放をお願いするのが分科会の主なミッションと言える。12か国中4か国しかWTOのGPAに加入していないにも関わらず、TPP交渉で政府調達という分野が設けられて議論されていること自体が画期的である。最終的な合意がなされれば、残り8か国の政府調達の市場開放が何らかの形で実現することとなる。日本にとっては参入機会が増え、また、日本のインフラ整備などのノウハウを世界展開するチャンスでもある。開放する側にとっても、他のTPP参加国から幅広く調達する可能性が増え、生産性の向上にもつながる。

物品市場アクセスも本日から開始だが、最初はバイの会談を進める。相手国名は、いざれ話ができるように工夫するが、当面は言えない。今日の時点で、オファーの交換をした国1か国とバイの交渉をしている。オファーの交換をした国との初めての交渉である。また、その他の1か国と協議をしている。明日は3か国と交渉予定。知的財産、政府調達、物品市場アクセスはバイの交渉が予定されている。明日から原産地規則が9時から18時まで行われる。明日は、4分野の会合が大臣会合の裏で行われることとなる。

大臣がICC(International Convention Center)の会場入りの際や会見でも言ったが、TPPは21世型の新しい交渉である。この意味は、物品の関税を下げた国際分業を効率的に行ってお互いにメリットを受けるといった古典的経済理論をさらに進め、新しい国際経済秩序、経済統合を実現するということである。また、TPPは共通のルールを守る国の集まりでもある。民間企業が安心してTPP加盟国との間で自由にグローバルなサプライチェーンを築き、新たなバリューチェーンを域内で構築するのが最大の狙い。関

税だけでなく、知的財産、政府調達、原産地規則などさまざまな新しいルールに合意し、透明性が高く安心感のある大きな市場を形成するのが、21世紀型の新しい考え方である。国境措置だけでなく、国境措置の内側にある様々なルールについても決めていくのがまったく新しいところ。こうした意欲的な新しいルール作りに日本も貢献したいと、今日の全体会合でも様々な議論がされた。

(以上)